

A. E. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学が決定してから、アルバイトばかりしていました。帰国後、すぐに就職活動を始め、
ことを覚悟していたので、秘書検定や自動車免許など、資格取得にも励んでいました。ビ
ザ申請は分からないことが多く、とても大変だったので専門の方に手伝ってもらいました。

② 現地到着後

関空発、アムステルダム経由、リーズ着の飛行機を利用しました。リーズ空港からはタク
シーに乗り、30分程度で寮に到着しました。オリエンテーションまで1週間ほどあったの
で、生活必需品を集めるために買い物をしていました。オリエンテーションでは語学学校
の説明と授業のクラスを分けるテストを受けました。日本でできることは全てしていたの
と、私費留学ではないため、やっかいな手続きは特にありませんでした。

③ 語学研修期間 (ESL, Academic Skills Study)

◆ 語学研修先の施設・環境について

4-6月は、主には Ziff Building という、student service をするビルの12階（実際は3階）
で授業を受けました。7月は Parkinson の中にある Language center の教室を利用してい
ました。ホワイトボードをたたくと画面が切り替わるという、日本では見たことのない機
器を使っていて面白かったです。8月は人数が増えたためか、English Department の建物
の地下を利用していました。

◆ 授業内容、課題、試験

授業内容は、正規授業が始まった時に困らないよう、エッセイの書き方やプレゼンの仕方、
メモの取り方などを学びました。授業の形式は AES とあまり変わりません。しかし、内容
が英国式であったり、細かいテクニックを教えてもらったので、ためになったと思います。
課題は日本の時よりも少なかったため、正規授業が始まった時に大丈夫なのか不安になり
ました。試験は学期末に英語力がどれほど成長したのかはかるものを受けました。

④ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

大学の敷地がとても広いです。休み時間がないので、先生達も授業を5分間遅くはじめ、5
分間早く終わらせてくれます。しかし、10分では同じ建物でないかぎり移動は厳しいと思
います。私はあるセミナーの教室が分からず、迷子になり、掃除のおじさんに車で教室ま
で連れて行ってもらったことがあります。教室のドアを開けたのがおじさんであったこと、
50分授業の45分を遅刻したことで、クラス中の人たちに笑われました。いい思い出です。

◆ 履修科目

・ Introduction to Cultural Studies : 「文化」を学ぶというよりも、「文化の構成要素（言葉や絵、音楽）」を学びました。

・ Japan in Globalizing World : 日本のグローバル化を歴史、政治、文化、経済の観点から学びました。

・ Introduction to Communication Studies : グーグルが与える影響など、メディアコミュニケーションの基礎について学びました。

Cultural Studies は日本で登録しました。Japan の授業は現地で登録科目を変更しました。

Communication Studies は日本にいる間 TOEFL の基準点に足りていなかったため、現地で IELTS を受け、基準点を突破してから登録しました。

◆ 授業、レポート、定期試験

Cultural Studies は 2000-3000 字のエッセイ 1 つとテストが 1 つ、Japan in Globalizing World はテスト 1 つ、Communication Studies はポートフォリオ 1 つでした。

Communication のポートフォリオは毎週の課題の積み重ねであったので、最終的には 5000-6000 字のものになりました。とても苦労しましたが、やりがいがあったなと思います。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

Japanese Society に所属していました。日本語学部の生徒だけでなく、日本の文化に興味があって所属する人もいました。日本語学部の人たちは本当に日本語が上手です。本当に驚きます。Japanese Society に所属しなくても、何かしらの Society に所属したほうが、友達ができやすいと思います。

⑥ 現地での住まいについて

Charles Morris : 4-6 月はキャンパス内にある寮に住んでいました。ここは食事付きで、学内の寮なので移動もしやすかったです。私が住んでいたのは古いほうの 7 階で、隣の部屋の女の子とトイレとシャワーが共用でした。フラットメイトがほぼイギリス人で、14 人もいたので、英語で生活するにはとてもいい場所だったと思います。

Leodis Residences : 7-1 月は、大学から徒歩 10 分の寮に住んでいました。夏休みは学内の寮は全て閉まり、学外の限られた寮に住むことになります。ここは、寮自体が大きいので、多くの留学生が住んでいました。トイレとシャワーは個別で、キッチンだけ共用でした。

⑦ 長期休暇の過ごし方

ヨーロッパ中を旅行しました。私はスペイン、イタリア、ドイツ、オランダ、ベルギー、フランスに行きました。ヨーロッパは LCC がたくさんあるので、気軽に安く旅行できます。

⑧ 留学期間中の就職活動の取り組み

何もしていません。授業で手一杯だったので、就職活動をする余裕はありませんでした。在英中、フェイスブックなどを通して、日本企業が留学中の日本人学生に声をかけてくることもあります。グローバル化が進む社会なので、留学経験に不利なことは一切なく、むしろ有利な点が多いと思います。就職活動が理由で留学を諦めるのはもったいないと思います。

II. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

特別なことよりも、日々のささいなことすべてが楽しかったです。思い出に残っていることは、フラットでのファミリーディナーです。10-1月に住んでいたフラットは全員とても仲が良く、月に1回は集まってご飯をつくって食べていました。稲荷ずしを用意した時に、スペイン人のベジタリアンの子がとても喜んでくれたのが嬉しかったです。

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

留学中で苦勞したことは、正規授業です。日本のときよりも課題がはるかに多く、予習を間に合わせるだけで精いっぱいでした。授業内容を理解できないこともありました。授業か予習をしているかの日々なので、一時期おかしくなりそうでした。私の場合、土曜日に思い切って1日中休み、day tripに行くなどして気分転換を行いました。気分転換をすることでメリハリが付き、他の曜日は勉強に集中できました。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

店が閉まるのが早いこと。美術館などで写真を撮れるところ（だめなところもありますが、ほとんど大丈夫でした。）喫煙率の高さ。お酒を飲む量。真冬でも半袖を着るところ。電線がないこと（地下に埋めてあります）。

人に関しては特に違いを感じませんでした。文化背景が違うため、私のなかの常識を超え、予想できないことをする人もいます。しかし、「人」としての本質はみんな同じだと思いました。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

リーズ大学の良かった点は、国際的な総合大学であることです。留学生が2000人弱在籍しているのです。いろいろな国の友達ができます。また、総合大学なので授業の種類が豊富です。1年の留学であったら、学部関係なく授業を登録できます。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンは必需品です。スカイプは私の留学中の生命線でした。マイクはいいやつを使う事をお勧めします。旅行を楽しみたいなら、日本のガイドブックを持っていくのもいいと思います。イギリスで買ったガイドブックでも充分でしたが、写真が少ないです。写真がたくさん載っている日本のガイドブックを持っている日本人観光客を見かけると、少しうらやましかったです。

③ 語学力の向上等、留学の成果

実感としては、相手が話す内容がだいぶ理解できるようになったと思います。英語をペラペラ話すことができるとは言いきれませんが、言いたいことは言えるようになったと思います。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学をしたい気持ちがあるのならば、諦めずに挑戦してください。私は TOEFL の点数が思うように取れず、何度も落ち込みました。しかし、諦めずに努力した結果、最後の試験で目標点に到達することができました。

留学を経験することで、日本の素晴らしさや、自分がどれだけの人に助けられ、支えてもらって生きているかが分かります。これに気づけたことで、強く優しくなれると思います。何もしないで心配するよりも、自分の気持ちに正直になって行動してみてください。応援しています。

IV. 写真 (1~2 枚を貼付。各写真について 100 字以内程度で説明)



フラットメイトと湖水地方へ day trip した時の写真です。イギリスらしい景色を眺めながら、大好きなフラットメイトとともに過ごした時間は、私の宝物です。

M. T. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学決定前からリスニングのためにBBCを日常的に聴くようにしていました。決定後も渡航前まで日常的にラジオを流すようにしていました。ビザ申請は業者さんにダブルチェックをお願いしました。申請書類はなかなか複雑だったので、一人でやるのは不安でしたが、私を担当してくれた方に電話で聞きまくりました。

② 現地到着後

空港からはタクシーで30分程度だったと思います。£20くらいした気が・・・空港から£3でバスが出てますが、寮の目の前まで連れて行ってくれるタクシーに任せたほうが安心です。私の場合、寮についた時には寮のオフィスが閉まっていた、鍵がなく入れない状態でした。同じ棟の男の子が助けてくれたので鍵も手に入れることができましたが、事前に連絡を取っておくべきだったと思います。学校の手続きに関しては、複雑な作業はなかったです。

③ 語学研修期間 (ESL, Academic Skills Study)

◆ 語学研修先の施設・環境について

新しい建物だったので、施設もきれいだし、学習に使う設備も整っていたと思います。ただ、思ったよりも日本人が多くてびっくりしました。言語研修の前期は、日本人とアラブ系の生徒がほとんどでした。後期は日本人と中国人でクラスが構成されている感じ。週5日で朝からお昼の3時くらいまで一緒に過ごすので、とても仲良くなれます。

◆ 授業内容、課題、試験

リスニング、ライティング、リーディング、スピーキングの4技能を中心に授業は行われました。クラスによって課題の量が大きく異なっていました。リーディングの宿題は多かったです。研修の後期の授業のほうが、アカデミックな内容になっていたので満足でした。エッセイの書き方や参考文献のまとめ方など、丁寧に教えてくれたので、学部の課題にも役立ちました。試験は、TOEICのような選択式のテストと単語テスト、エッセイ、そしてスピーキングのテストがありました。

④ 正規科目履修期間

◆ 大学の施設・環境について

大きな部屋での講義でも快適に受けることができました。少人数のクラスは、教授との距離も現地の生徒との距離も近かったので、分からないことはすぐに聴ける環境でしたし、みんな親切にしてくれました。図書館も長時間開いていたし、24時間開放のパソコンルームもあったので勉強に集中することができました。

◆ 履修科目

Introduction to Cultural Analysis1:

絵画や映画、音楽といった様々な観点から文化とは何かを考えていく授業でした。この講義はほぼ毎週扱う内容が変わるので、読み物の量がとても多かったです。それに加え、内容も抽象的なものが多かったのでなかなか理解できず、セミナーの友達と話しながら理解を深めるようにしていました。2時間の講義と1時間のセミナーで構成されていました。

Language Description for Education:

留学前から第二言語学習について興味があったので、教育と心理に関する授業をとろうと決めていました。言語学の要素も含む内容だったため、楽しみながら受けることができました。ただ課題の6000 wordsのエッセイが、ものすごく大変でした。

Social Psychology:

心理学の基本を学ぶ講義でした。集中型の講義だったため、週2日2時間の授業日程で、リーディングの量もなかなか多かったです。

Psyc of Counselling & Therapy:

単位とスケジュールの関係でとった講義でしたが、カウンセリング方法の原理や考え方を学ぶもので、興味を持って授業を受けることができました。心理学の授業は2つとも選択式の試験問題でしたが、講義だけでは試験内容は網羅されていないので、参考書をすべて読むことが必須でした。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

Japanese Society に所属はしましたが、ほとんど参加していません。

⑥ 現地での住まいについて

寮は安さを第一に考えて決定しました。2つ目と3つ目の寮はトイレ・バス共同だったのですが、特に大きな問題もなく過ごしました。一緒に住む人によってはキッチンが汚かったりすることもあります。自分が掃除したらいいことですし、相手に言うこともできるのであまり気になりませんでした。食料品が安かったのもとても自炊しやすかったです。

James Baillie と Lupton は学校まで徒歩で30分以上かかったと思います。学校前からバスも出ています。St Marks は学校まで5分くらいととても立地がよかったです。

⑦ 長期休暇の過ごし方

旅行をしていました。ヨーロッパの国々に行くには最高の場所です。格安航空も多いので、信じられないくらい安い値段でいくことができます。宿泊費も安く抑えることができます。留学中の旅行で、旅に対する概念がガラッと変わりました。

⑧ 留学期間中の就職活動の取り組み

何もしていませんでした。少しでも情報収集など行っていたほうが帰国後のためにも良かったのかもしれませんが、一生に一度の海外留学ですので、目の前のことに全力で向き合

うようにしました。だから、「何かしとけばよかったなあ」という後悔は一切ありません。

Ⅱ. 留学の感想

① 留学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

現地でできた友達と一緒に時間を過ごしたことです。元フラットメイトの皆が家に呼んでくれたり、学校で食事をしたり、パブに行ったり、映画を見たり・・・楽しい思い出がいっぱいありすぎて書ききれません！

② 留学中でつらかったこと、最も苦勞したこと

授業のところでも書きましたが、6000 words のエッセイは骨が折れました。あまりにも多い情報量に圧倒され、どこから始めたらいいかも分からなかったのですが、フラットメイトやセミナーの友達に助けてもらいながら進めました。完成させるには時間も労力も費やしたので苦勞しましたが、どうモチベーションを保ち続けるかという点でも学んだことは多かったです。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

お店の閉店時間が早いことです。閉店前にお店の掃除をし始めるといった、日本ではあまり考えられないことが起こります。そんな光景も日常なので、慣れてしまいました。驚いたことはいっぱいあったと思いますが、忘れてしまいました。

Ⅲ. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

大学の規模が大きいです。自分の興味のある授業が必ずあると思います。学生が大勢いて国際色も豊かなので、様々な国の人と友達になれます。場所によっては少し治安が悪いかも知れないです。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

パソコンと変圧器は必須です。カメラ、電子辞書など身近な電子機器。それと、洗濯ネットは持って行って損はないと思います。圧縮袋は帰国のときに大活躍します。

③ 語学力の向上等、留学の成果

リスニングの力が向上したと実感しています。留学を通して、自分の考えを伝えようという意志が強くなりました。いいのか悪いのか、多少の文法ミスを気にしなくなったり、自分を伝えることに対する抵抗感が薄れたことで、より積極的になりました。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学を通じてやりとげたい目標があるなら、留学をしたほうがいいと思います。強い目的意識があれば、多少の不安を感じてもリスクを恐れず挑戦することができます。いろいろな文化を持った人々、自分とは異なる価値観を持った人々と接することで、自分の世界観

が広がります。素敵な出会いをして、自分の感性を磨くことのできる素敵なチャンスをつかんでもらいたいです。

IV. 写真（1～2枚を貼付。各写真について100字以内程度で説明）



ドイツに一人旅をしたとき。ホステルで同室になった女の子と意気投合し、丸1日一緒に過ごしました。ケルンのクリスマスマーケットの前での1枚です。

A. K. 英語英文学科・3年次

I. 留学レポート

① 留学決定から出発までの準備期間

留学決定後はVISAの申請に最も苦戦しました。始めは自分自身で申請しようと試みましたが、イギリスのVISA申請は複雑だった為、専門の機関に頼みました。その機関が全ての資料を翻訳してくれ、預金証明などの方法や用意しなければいけない資料や証明書を分かりやすく教えてくれたため、無事に申請することが出来ました。勉強は留学決定後も決定前と同じようにTOEFLの勉強を続けました。私は特に語彙数が少ないことが弱点だったので、語彙を重点的に勉強しました。

② 現地到着後

現地到着後は、空港からタクシーで寮まで移動しました。語学学校が始まる一週間程前に現地に到着したこともあり、語学学校が始まるまでの間、ゆっくり過ごすことが出来ました。到着して第一に思ったことは、自分が想像していたよりもリーズは落ち着いた街だったということです。留学前にリーズがどのような街か調べましたが、イギリス第3の都市なので、もっと都会で騒がしい街をイメージしていました。到着後から語学研修が始まるまでの間、特に手続きはありませんでした。

③ 語学研修期間

語学研修先は9月から通うリーズ大学内に併設されているので、大学の雰囲気がよく感じられる環境でした。リーズの正規学生と同じ学生証が与えられ、図書館やパソコン室を自由に使用することが出来ました。しかし、私達の語学研修期間のほとんどが正規の学生にとっての休暇期間中だったので、キャンパス内には語学学生以外、ほとんど学生がいない環境でした。途中、テスト期間に一時的に学生がキャンパスに戻ってきましたが、それも一ヶ月程すると、新学期まで休暇期間に入るので留学生を除いて多くの学生は地元へ帰省していきました。リーズは学生の街と呼ばれるだけあり、学生が多い活気溢れる街です。しかしながら、日本の学生と違い、ほとんどの正規の学生が地方から来ているため、休暇期間中は地元へ帰ります。そのため、休暇期間中はリーズの街自体も大変静かで落ち着いた街になります。語学研修学校に通う語学学生は、時期にもよりますが日本人が圧倒的に多かったです。他には私たちが来る以前からいるアラブ系の学生も多くいました。語学研修期間の後半からは中国人や韓国人や新しい日本人の学生も増え、より国際的な雰囲気になりました。

語学研修の授業内容はリスニング、リーディング、ディスカッション、プレゼンテーション等多岐に渡りましたが、中でもライティングは最も強化されました。イギリスの大学はレポートの採点基準が厳しく、良い内容の文章を書いてもイントロ、ボディ、コンク

レーションできちんと構成されていないと良い結果は貰えないでしょう。また、レポートや論文を提出する際、コンピューター上のあるシステムのようなものを通すのでインターネットや本から文章をそのままコピーした場合はすぐに分かります。引用の仕方にも方法があったり、何パーセント以上引用した場合は減点の対象になったり等、日本のシステムと比べて大変厳しく感じました。その分、ライティング力が確実に向上しました。リスニングやリーディングもアカデミックなものを勉強しました。研修の中で一番苦戦したことは、プロジェクトの発表の為に町でアンケートを取ったことです。自分の英語力に自信が無かったことが原因で声を掛けるのに大変躊躇しました。途中からどんな人を選べば良いかや、どんな風に声を掛ければ良いかのコツを掴むことが出来て、結果的には多くの人にアンケートに協力してもらえ、プロジェクトも無事終わることが出来ました。語学研修学校では英語のスキルだけでなく、発言力や企画力、プレゼンテーション力等のスキルも身につきました。

④ 正規科目履修期間

9月後半から大学で正規の授業が始まりました。語学研修が大学内だったことからすでに大学の施設、設備についてはある程度知っていました。授業は9月後半からでしたが、9月初め頃から徐々に休暇期間中だった学生が寮に戻ってきたり、今年からリーズ大学に入学する学生が寮に引っ越してきたりで、9月半ば頃までにはキャンパス内は学生で溢れかえっていました。リーズ大学はマンモス校で3万人以上の学生が在籍しています。そのため、正規授業が始まる頃には語学研修期間の時とは想像できない位の学生が大学内にいて、新入生のためのオリエンテーションやイベント等でキャンパス内は盛り上がっていました。私は、East Asian Studiesという学部にも所属していましたが、多くの日本人留学生が同じ学部割り当てられていたと思います。学部にも所属はしていたものの、留学生は基本的に留学生用のMODULEに載っていればどの学部の授業でも履修することが出来ました。（TOEFLやIELTSの点数により一部受講できない学部の授業もありました。）私は様々な学部から授業を取りました。正規の学生と同じ単位分を留学生も取得することが出来、半学期で約3から5の授業を履修します。単位数は異なりますが、単位が大きい授業は週に2回から3回講義があったり、中間レポートの提出、発表があったりする等、やはり難易度に差が出てきます。私は4つの授業を履修しましたが、まず興味のある授業のシラバスを良く読み、難易度も考えて自分が無理なく履修できそうな授業を最終的に履修することにしました。私が履修した授業は以下の4つです。

1. Design Management 1A

この授業は、デザインとビジネスの関係を学ぶ授業です。これはデザインコースからの授業で、ビジネスにおいてどれ程デザインが重要な存在であるかを教えてくれます。中間レポートの提出と最終試験がありました。試験は論文形式で、与えられた時間内に与えられ

た問いに対して授業で学んだことと自分の意見を組み合わせながら小論文を完成させなければいけませんでした。

2. A Story of Art I

この授業は週に3回あります。2回は講義で1回はセミナーです。アートコースの学生にとって必須科目だったためか、大教室で200人程度の学生がこの授業を履修していました。講義は履修者全員で受けますが、セミナーは1グループ10名程度に分けられ、各グループに講師が付き、その週にあった講義について詳しく説明してくれたり、質問を受け付けたり、学生同士で意見を言い合ったりします。この授業は、アートの歴史について学びますが、ほぼ毎週小レポートの提出が課せられ、そのために読まなければならない資料が大量にありました。最終試験が成績の100パーセントを占める授業です。

3. Colour Vision and Appearance

この授業は色がもたらす効果や、人間の目のしくみ等を教えてくれ、視覚の不思議を経験することが出来ます。この授業も週に3回あり、2回が授業で1回がセミナーでした。この授業自体、履修者が9人と少ないこともあって、セミナーでは発言の機会が多かったです。

4. Introduction of Colour Science

この授業はColour Vision and Appearanceに共通する部分がありました。色の出来方、見え方、不思議を教えてくれます。この授業は多くの日本人学生が履修していたこともあって、分からないところは確認し合え、教え合うことが出来たので安心して授業に挑むことが出来ました。

⑤ クラブ、課外活動、ボランティア活動

クラブ活動や課外活動は特にしていませんでしたが、日本人留学生や日本語を学んでいる学生が集まるJapanese Societyにはたまに参加していました。みんなでパブやクラブに行ったり、誰かの家でパーティを開いたりと楽しく過ごせました。SocietyでExchange Partnerを作り、Society以外でも日本語と英語をお互い教え合ったり、彼女の寮に遊びに行ったりと度々会っていました。

⑥ 現地での住まいについて

私は留学生生活のほとんどをキャンパス内の寮で暮らしました。途中、その寮が休暇期間のために一時閉鎖されたので、その期間、語学学校生は一つの寮に集められました。その間の寮はキャンパス内ではないので、毎朝バスに乗って通学していましたが、スーパーやカフェ等が寮の近くにあったため全く不便ではありませんでした。イギリスの寮はフラットごとに区切られているのですが、この寮では1フラットに約4名の学生がいました。その学生の間でキッチンやシャワー・トイレを共有するのですが、使用する時間等の面や使い方などで気を使わないといけないので共有は個人的にあまり好きではありませんでした。

しかし、イギリスの寮は独り部屋を与えてくれるので自分の時間を持つことが出来、自由に過ごすことが出来ました。一時的に多くの寮が閉鎖されている期間以外はCharles Morris Hallというキャンパス内の寮に住んでいました。大学寮の中では一番新しく、設備も大変整っていました。この寮ではシャワー・トイレも各部屋に設置されているので周りに気を使うことも無く自由に使用することが出来ました。また、大学内に位置するので通学にも便利でした。朝食・夕食も付いていてキャンパス内のカフェテリアで食べることが出来たので各フラットにキッチンが付いていましたが、料理をする必要も休日以外ほぼありませんでした。また、この寮には各フラットに共有ルームが有り、そこにはキッチンからテレビ、洗濯機、乾燥機まで付いていました。

⑦ 長期休暇の過ごし方

長期休暇は友達とヨーロッパの国々を旅行しました。比較的手軽に格安で周辺の国々に旅行に行くことが出来ました。イギリス国内の様々な地方にも訪れました。

⑧ 留学期間中の就職活動の取り組み

留学期間中、就職活動について全く考えていなかったもので、特に何もしていませんでした。

II. 留学中の感想

① 学中で楽しかったこと、最も思い出に残っていること

様々な国の学生とコミュニケーションが取ることが出来て楽しかったです。リーズ大学は国外から留学生多くを受け入れているのでインターナショナル色が強い大学です。同じ土俵に立っている留学生同士はすぐに仲良くなれました。もちろんイギリス人の友達も出来、彼らの生の英語を聴くことはとても刺激的でした。多くの学生にとって寮やシェアハウスでパーティを開くことは習慣のようになっていますが、私も多くのホームパーティに参加し、友達の輪を広げていました。最も思い出に残っていることは、友達とヨーロッパへ旅行したことです。ヨーロッパの国々へ数時間で行くことが出来、値段も時期によって異なりますが日本から行くよりも断然格安なので、長期休暇期間は必ず友達と旅行していました。どの国にもそれぞれの文化があって、歴史的建造物の美しさには圧倒されました。イギリス国内でも様々な地方へ旅行しましたが、同じ国内でも地域によって雰囲気が異なり、自然豊かで歴史溢れるイギリスに感動しました。

② 留学中でつらかったこと、最も苦労したこと

ホームシックにかかっていた時期が留學生活で最も辛かったです。親しい人がいない新しい環境の中で過ごすということは想像以上に辛いものがありました。しかし、支えてくれる友達が現地でも出来、徐々にホームシックも感じなくなっていきました。他には食事に苦労しました。日本食レストランもあるのですが、やはり日本で食べる味とは異なるので、

日本食が大変恋しくなりました。最も苦勞したことは勉強です。英語での講義に付いていくのに苦勞しました。試験勉強は特に必死に勉強しましたが、正規の学生と全く同じものを受けるので、とても不安でした。

③ 文化・習慣の違いなどで驚いたこと

文化の違いは多々感じました。日本人の場合、欧米人に対する憧れが強いためか、日本に来る欧米人を手厚く歓迎しがちですが、多国籍国家であるイギリスには外国人がたくさんいます。そのため、私たちアジア人留学生も特に珍しい存在ではなく、イギリス人はイギリス人同士でグループのように固まり、基本的に留学生は留学生同士で集まることが多いように感じました。イギリス人はパブに行く習慣があり、休日や休前日に関わらず、平日でもパブやナイトクラブに毎日のように出掛けます。そのため、リーズ市内にもパブ、クラブが多く存在し、大学内でさえ設置されています。反対に休日は部屋で静かに過ごす学生が多い気がします。パブやナイトクラブの他にも寮内でよくパーティを開いています。そのため、毎日騒音が酷く、最悪眠れない場合もあります。また、共有ルームの使用方法については文化の違いというより考え方の違いに驚きました。許可を得ず、私の食材から食器まで勝手に使われていたときは驚きが隠せませんでした。私のフラットの全員がそのような人ではなかったので一概には言えませんが、友達も同じ経験をしていたので、異文化を改めて知る機会になりました。

III. 留学希望者へのアドバイス

① 留学先大学の良かった点、悪かった点

留学先がイギリスで最も良かったと思える点の一つとして、ヨーロッパ旅行に比較的簡単に行けるということです。長期休暇を利用して様々な国々に旅行することが出来ました。留学先大学であるリーズ大学は歴史と伝統のある大学で学問においても国内外から高い評価を受けています。イギリスだけでなく、国外の学生にも大変人気があり、多くの留学生を受け入れているので様々な国籍の学生と知り合うことが出来ます。日本語学科の学生や、日本のことが好きな学生が集まるJapanese Societyもあるので現地の学生とも友達になれます。キャンパスはとても広く様々な建物がありますが、中でもリーズ大学の象徴と言っても過言ではないParkinson buildingの大階段と時計台はとても魅力的です。キャンパス内の図書館は深夜12時まで、一部のパソコン室は24時間空いているので勉強するにはとても良い環境だったと思います。また、私が出会った大学講師は素晴らしい方々ばかりでした。講義が全て英語のため、初めは不安で仕方ありませんでしたが、講師の方々がとても親身に相談に乗ってくれ、サポートしてくれたおかげで頑張ることが出来ました。学校に関して特に不満な点はありませんが、リーズの街自体、治安があまり良くなかったため安全面では不安に思うことがありました。外灯も日本と比べて多くないので、夜道は

特に気を付けてなるべく一人で歩かないようにしていました。また、店の閉店時間が日本と比べて早く、どの店も早くて5時、遅くても7時には閉まるので、日本と同じ感覚で買物物は出来ません。学生も親切で優しい人たちが多いですが、一部人種差別的な考えを持つ人々がいることも事実です。

② 日本から持って行って、特に役に立ったもの

日本から持参して最も役に立ったものはノートパソコンです。やはり、パソコンでレポートを書くことが多く、授業のレジュメ、パワーポイントもパソコンから見る事が出来るので勉強のためにも必需品でした。授業の休講情報等、履修授業の担当講師からの緊急メール等が届くこともあるので一日に一回は大学のホームページから確認していました。また、Eメールやスカイプで日本の家族、友達と連絡を取ることや、日本で起こったニュースを知るためのツールとしてもパソコンは大変役に立ちました。他には色々な場面を思い出に残すために、デジタルカメラは毎日持ち歩いていました。風邪薬や痛み止め、常備薬も体調が悪い時に役立ちました。電子辞書は分からない単語をすぐに調べることが出来るので、講義を受ける際は必ず持参していました。また、これは個人的に持参して良かったと思う物ですが、日本の書籍です。私の場合ですが、英語の文書を日々読んでいると、日本の読み物が読みたくなりました。暇つぶしや日本が恋しくなったときのためにも日本の書籍を持って行くことをお勧めします。友達は帰国後すぐに就職活動が出来るように、就職活動関連の本も持参していました。その他にも日本から色々な物を持参しましたが、生活する上で必要なものは全てイギリスに売っているので、パソコンさえ持参すれば困ることはないと思います。

③ 語学力の向上等、留学の成果

この留学生活を通して、語学力はリスニングとライティングが主に向上したと思います。毎日シャワーのように英語を聞くので自然とリスニング力は伸びますし、イギリスの大学はレポート提出が多く厳しい採点方法なのでライティング力も身に付きました。リーディングやスピーキングといった他のスキルももちろん日本にいた時と比べて向上しました。勉強面以外では、この留学で自立心と環境に適応する力を養うことが出来ました。留学するまでは実家暮らしだったこともあって、家事を母に任せっぱなしな部分がありました。しかし、今回の留学で一人暮らしを経験することにより、今まで日常的にしなかったことも毎日しなければいけなくなり、改めて親の有り難さや、自立することの大変さを学びました。そして異文化の中で暮らすことによって、新しい環境に飛び込むこと、慣れることの難しさを学び、それに適応出来る力を養えた気がします。

④ これから留学をしようと思っている後輩へのアドバイス

留学は想像していたよりも本当に大変でした。留学する前は不安よりも好奇心や楽しみな気持ちの方が断然強かったですが、実際留学が始まると、日本にいた時に抱いていた好奇

心等のポジティブな気持ちよりも不安な気持ちの方が勝っていました。近くに家族がいないことや、勉強面でストレスが溜まり、辛い時期もありました。しかし、周りにいた人たちに支えられて留学をやり遂げることが出来ました。もちろん辛いことばかりではありませんでした。活気ある学校で正規の学生と一緒に授業を受けられるということはとても新鮮で刺激がありました。他にも、リーズは娯楽に溢れた街だったので、休日は外に出掛けて買い物やカフェに行ったり、夜はパブに行って様々な人とコミュニケーションをとったりしてとても充実した日々を送ることが出来ました。良い思い出もあれば、辛い思い出もありましたが、全てが私にとってためになる経験でした。この留学では語学力はもちろん向上しましたが、人間的にも大きく成長させられました。今後の生活においてもこの留学経験は大きな意味を持っていると思います。これから留学する皆さん、留学生活は長いようであつという間です。その貴重な経験を無駄にしないように一日一日を大切に過ごしてください。辛いときもあるかもしれませんが、そんな時は一人で抱え込まず周りに相談してください。きっと乗り越えられます。懸命に勉強に励むことも大切ですが、約1年の短い留学生活なので、様々なことに挑戦してみてください。